

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学特別講義Ⅱ（国際経済）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-森 邦恵	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 本講義では、現代経済を多面的に考察するため、経済学がどのような分野に応用されているかを紹介します。ミクロ経済学の理論をもとに、観光・環境・交通などの政策や価格決定の仕組みについて解説し、国内外の具体的な事例を示しながら、これら3つのテーマを関連性をもって検証できるようにします。	メッセージ 紹介するのは3つのテーマの一部ですが、経済学が身近にあることを感じてください。
	到達目標 1) 現代経済の様々な現象を、理論的な視点で解説できるようにする。 2) 経済用語の習得を目指す。 3) 与えられたテーマに関して、学生自らがニュースや新聞記事に、興味を持てるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに（授業を受けるにあたり）	授業内容を復習
	2	観光と経済（1） 観光とは何か	授業内容を復習
	3	観光と経済（2） 観光商品の特徴	授業内容を復習
	4	観光と経済（3） データから見る観光	授業内容を復習
	5	観光と経済（4） 観光政策と理論的解説	授業内容を復習
	6	交通と経済（1） 交通と経済、交通サービス	授業内容を復習
	7	交通と経済（2） 交通料金の仕組み〔1〕	授業内容を復習
	8	交通と経済（3） 交通料金の仕組み〔2〕	授業内容を復習
9	交通と経済（4） 様々な交通産業と政策	授業内容を復習	
10	環境と経済（1） 環境問題を経済学的に考える	授業内容を復習	
11	環境と経済（2） 環境の価値とは	授業内容を復習	
12	環境と経済（3） 環境を評価する	授業内容を復習	
13	環境と経済（4） 環境政策のこれから	授業内容を復習	
14	観光・交通・環境のテーマの関連性と事例紹介	授業内容を復習	
15	授業のまとめ	授業内容を復習	
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 講義は板書・スライド・配布資料によって行われます。		
	学びの手立て 1) 受講時には、静粛な環境を求めます。静粛な環境に協力できない学生には、履修資格を与えません（講義の途中で失格扱いとします）。 2) ミクロ経済学の初歩的な知識を必要とします。授業内では、テーマへの利用の仕方について紹介するので理論を基礎から教えることはしません。 3) 毎日の授業後に、ノート・配布資料を見直して復習してください。		
	評価 評価：試験50% 受講態度50% 授業に出ていることが前提の試験内容となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業をきっかけに、ニュースなどに興味をもち、他の授業でも関連性を学んでほしいです。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学特別講義Ⅳ（海外経済事情）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-青木 芳将	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、経済政策が国民生活に与える影響を、短期・長期・国際関係といった3つの観点から理論モデルを用いて考察します。これにより、社会問題を考える多様な視点の習得が見込めます	現実の社会は複雑です。経済学がその複雑な問題に対してどのように対応できるのか、を理論モデルを用いた分析を通して見ていきましょう。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 現代経済の様々な現象を、多様な視点から判断できる 2) 現在の経済状況と経済政策の効果を知り、理論的な分析ができる 3) 国際的な問題が身近なものと感じていることを知り、社会問題へ学生自ら興味をもつ 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに（授業を受けるにあたり）	授業内容を復習
	2	短期の経済政策（1） IS・LM分析	授業内容を復習
	3	短期の経済政策（2） 均衡国民所得の導出	授業内容を復習
	4	短期の経済政策（3） 閉鎖経済での財政・金融政策の効果	授業内容を復習
	5	短期の経済政策（4） マンデル・フレミングモデル	授業内容を復習
	6	短期の経済政策（5） 大国モデル	授業内容を復習
	7	短期の経済政策（6） 完全雇用国民所得	授業内容を復習
	8	第1回確認テスト 第2回～第7回までの到達度確認	
	9	長期の経済政策（1） 経済成長の歴史	授業内容を復習
	10	長期の経済政策（2） 寄与度分析・成長方程式	授業内容を復習
	11	長期の経済政策（3） 経済成長理論	授業内容を復習
	12	経済政策の応用（1） 援助政策（1）	授業内容を復習
	13	経済政策の応用（2） 援助政策（2）	授業内容を復習
14	経済政策の応用（3） 資源の呪い	授業内容を復習	
15	経済政策の応用（4） 政府の失敗	授業内容を復習	
16	第2回確認テスト 第9回～第15回までの到達度確認		
テキスト・参考文献・資料など			
講義は板書・スライド・配布資料によって行われます。指定の教科書ありませんが、ミクロ経済学・マクロ経済学の本は本講義の参考図書となります。			
学びの手立て			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 受講時には、静粛な環境を求めます。静粛な環境に協力できない学生には、履修資格を与えません（講義の途中で失格扱いとします）。 2) ミクロ経済学・マクロ経済学の初歩的な知識を必要とします。授業内では、テーマへの利用の仕方について紹介するので理論を基礎から教えることはしません。 3) 毎日の授業後に、ノート・配布資料を見直して復習してください。 			
評価			
評価：試験70% 受講態度30% 授業に出ていることが前提の試験内容となります。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済学の分析方法を学び、他の社会問題や科目へ応用できるように復習しましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域経済特別講義Ⅱ（地域経済と社会）	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊佐 淳	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講の目的は、NPOの定義や、日本のNPOの現状、NPOと企業や行政との違いを学ぶことによって、NPOについての基本的な知識を身につけてもらい、さらには、これからのNPOが果たすべき役割や可能性について、皆さんに考えてもらうことにあります。</p>	<p>NPOという言葉は耳にするようになってはきたのだけれど、何だかよくわからない、という人も多いのではないのでしょうか。もしかしたら、さまざまな誤解もあるかもしれません。そこで、本講義では、以上の点を念頭に置き、さまざまな具体例も交えながら、テキストに基づいて講義を進めていこうと思います。</p>
到達目標	<p>NPOが市民、行政、企業などと協働を図りながら、地域社会を担っていくには何が必要で何が課題であるかについて理解することと、自分自身のこれからの社会での生き方についてより深く考えるようになることの2点です。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義のガイダンス、事例紹介（1）	NPOの基本について理解する
	2	NPOの定義とNPOの分類	事例研究と定義の確認
	3	NPO法人の現状と課題	NPO法人とは何か。
	4	NPO法人の基本的な組織構造	NPOの組織について理解する
	5	NPOについての誤解	講義内容の確認
	6	事例紹介（2）	事例研究と定義の確認
	7	NPOと企業とは何が異なるのか	企業とNPOの違いの理解
8	NPOと行政とは何が異なるのか	行政とNPOの違いの理解	
9	事例紹介（3）	事例研究と定義の確認	
10	そもそもNPOはなぜ存在するのか（1）	NPOの存在理由についての理解	
11	そもそもNPOはなぜ存在するのか（2）	NPOについての調査	
12	NPOと協働、そしてネットワーク（1）	NPOと協働の理念についての理解	
13	NPOと協働、そしてネットワーク（2）	NPOとネットワークの理解	
14	事例紹介（4）	事例研究と講義の整理	
15	まとめ	集中講義の振り返りと総括	
16	テスト	試験内容の確認と講義内容の整理	
テキスト・参考文献・資料など	伊佐淳『NPOを考える（第2版）』創成社、2016年。適宜、参考文献を紹介します。		
学びの手立て	自分の周りを見回し、地域社会が様々な人たちによって支えられていることに関心を持ちながら毎回の講義に臨んでください。また、講義をきっかけにして、社会貢献活動やボランティア活動に参加するように努めてください。		
評価	講義の最終回に課す「まとめ」のレポート（70%）と受講態度（30%）とで評価します。なお、受講態度良好（建設的な意見、良い質問など）の場合は加点します。逆に、受講態度不良（私語、居眠り、30分以上の遅刻、教科書・筆記用具の持参無しなど）の場合には減点としますので、注意してください。4回欠席で不可になります。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目としては、公共経済学などが考えられます。受講終了後は、NPOに参加し、現実の地域経済社会にとって何が課題で何が必要なのかを理解し、自分自身のこれからの社会での生き方について引き続き考えていきましょう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境政策特別講義 I (開発と環境)	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-清野 聡子	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の開発と保全の調整の現状と課題、地域の自然観と合意形成について、沖縄市の泡瀬干潟を事例に考える。生態系の特徴、伝統的な利用などの地域知を理解する。開発により失う環境と、利害得失、利活用や維持管理の課題を考える。沿岸環境の制度の変遷と、それに伴う開発計画の進め方の変化、計画と実施の時間差、専門家会議や多セクター連携のあり方、合意形成の課題などに着目する。</p>	<p>事例とする沖縄本島東岸の泡瀬干潟の開発は、日本の沿岸環境制度の変革の時期に、環境調査と計画の一部見直しが行われた。生態系保全や再生の計画の実現化、地域の参加など埋立の今後の利活用が課題となっている。</p>
到達目標	生態系保全と地域開発の課題、調整や解決へのを具体的に考えられるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沿岸の開発と保全 概説	沿岸開発の背景の確認
	2	泡瀬干潟開発の概要と論点	泡瀬干潟開発の要件の確認
	3	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会 (現地)	泡瀬干潟現地の地理の確認
	4	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会 (現地)	泡瀬干潟現地の生態系の確認
	5	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会 (現地)	泡瀬干潟現地の構造物の確認
	6	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会 (現地)	泡瀬干潟現地の歴史・文化の確認
	7	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会 (現地)	泡瀬干潟の自然と文化の関係の確認
	8	現地で見た課題の描出、論点整理	泡瀬干潟の課題をリストアップ
	9	解決法の検討	泡瀬干潟の課題解決案を検証的考察
	10	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会 (現地) 確認	泡瀬干潟開発の要件の再確認
	11	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会 (現地) 確認	泡瀬干潟現地の地理の再確認
	12	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会 (現地) 確認	泡瀬干潟現地の生態系の再確認
	13	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会 (現地) 確認	泡瀬干潟現地の構造物の再確認
14	現地で見た課題の確認と提案	泡瀬干潟の課題解決の実現性を熟考	
15	地域の自然と社会の特性を活かした地域づくり 提案の検討	レポート案を作成	
16	地域の自然と社会の特性を活かした地域づくり 総括	レポート執筆内容の確認	
テキスト・参考文献・資料など 配布資料			
<p>学びの手立て</p> <p>資料で事前学習、現地で確認や発見、問題点と提案をまとめる。 現地見学により、資料では不明確だった点、発見などに特に留意する。課題解決案は実現可能性を熟考する。</p>			
<p>評価</p> <p>レポート 70% 授業参加度 30%</p>			

学びの継続	次のステージ・関連科目 環境政策論 I ・環境政策論 II
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学特別講義	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-福田 拓哉	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>サッカー、野球、バスケットボールに代表されるプロスポーツを経営学的視点から分析し、理解することを目的とする。「良いチームとはどういった状態を指すのか?」「リーグ全体が盛り上がるための制度とは?」「日本と海外との経済格差は?」「より地域に密着したチームを作るためにはどうしたら良いのか?」といった疑問に事例と理論を通じて迫ります。</p>	<p>プロスポーツにおけるチームの勝利と、ビジネスとの関係を経営学の観点から語れるようになりましょう。あなたの大好きなリーグやチームの盛衰の背景にあるビジネスロジックを実例を基に学びます。受講生同士のワークショップもあるので、能動的に学びたい学生を募集します。</p>
到達目標	プロスポーツにおける勝利とビジネスとの関係を論理的に説明できる状態になることを目指します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	プロスポーツの定義と本校で取り扱う対象	資料1, 2を読む
	2	プロスポーツの市場規模	資料1, 2を読む
	3	プロスポーツの運営構造	資料1, 2を読む
	4	プロスポーツの収支構造	資料1, 2を読む
	5	リーグの意味と役割	資料3, 4を読む
	6	開放型リーグと閉鎖型リーグ	資料3, 4を読む
	7	リーグ集権型とクラブ分権型	資料3, 4を読む
	8	リーグビジネスの現状と課題	資料3, 4を読む
	9	クラブビジネスの特徴	資料5, 6を読む
	10	クラブの経済格差(国際比較)	資料5, 6を読む
	11	クラブの経済比較(国内比較)	資料5, 6を読む
	12	特徴的なクラブマネジメント戦略	資料5, 6を読む
	13	スポーツファンの特徴と経営基盤化に向けた戦略	資料7, 8を読む
14	スポーツスポンサーシップの現状・課題・可能性	資料7, 8を読む	
15	全体のまとめと解説	資料7, 8を読む	
16	テスト	資料7, 8を読む	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	資料1: 世界のスポーツ産業の動向と日本のスポーツ産業の現状 スポーツ施設の観点から (http://ur0.link/RKnN)		
	資料2: Deloitte Football Money League 2018 (http://ur0.link/VZ6o)		
	資料3: 福田拓哉(2011)わが国のプロ野球におけるマネジメントの特徴とその成立要因の研究 -NPBの発足からビジネスモデルの確立までを分析対象に. 立命館経営学6(49), pp.135-159. (http://ur0.link/j84v)		
	※これ以降の資料は講義中に指示する。なお、全ての資料はインターネットから無料で入手できる。		
	学びの手立て		
	履修の心構えとしては、プロスポーツ(例:プロ野球、Jリーグ、Bリーグ)について興味を持つために、事前にそれらのニュース等を積極的に見るようにしておいてください。また、学びを深めるために、それらのプロスポーツリーグやチームのHPを閲覧し、それらに掲載されている様々なデータ(例:観客数、財務諸表等)に目を通すようにすると良いでしょう。		
	評価		
	評価: 講義中の発言(質問・意見・感想を含む)50%、期末テスト50%		
	評価基準: 講義における積極的な参加態度(質問・発言)が重要となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	プロスポーツの経営状況は社会の経済的状況とも大きく関連しますので、今後も結びつけながらプロスポーツの経営戦略等に興味を持って欲しいと思います。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報特別講義Ⅰ（経済と情報）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-原田 淳	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 産業社会における企業間競争を勝ち抜くために必要な経営資源の中でも、とりわけ情動的経営資源が鍵となることを学ぶ。	メッセージ 日常の消費行動を振り返って考察することも、企業経営を考える上での大切な学びの素材です。
	到達目標 経営学の基本的な考え方を習得する。その考え方を自分や周囲の人の消費行動に当てはめて考察することによって、企業の戦略を分析できるようになる。また、経営学の考え方を身の回りの組織活動に当てはめて考えることによって、企業組織での働き方の意思決定に結びつけられるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義中に適宜課題を出題
	2	企業戦略とは	同上
	3	競争戦略	同上
	4	ビジネスシステム	同上
	5	事業構造	同上
	6	コーポレートガバナンス	同上
	7	雇用構造	同上
	8	働くとは	同上
	9	協働	同上
	10	リーダーシップ	同上
	11	経営システム	同上
	12	組織構造	同上
	13	管理システム	同上
	14	場のマネジメント	同上
15	働き方を考える	同上	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献 伊丹敬之『経営を見る眼』東洋経済新報社		
	学びの手立て およそ2コマ毎に小テストを行います。講義内容を自分の経験に当てはめてもらう内容です。受講後も同様の視点で消費行動や組織活動を観察することによって学習が深まります。さらに、就職後のPDCAサイクルに活用できるようになれば、スキルの向上に活かされます。		
	評価 評価方法：小テスト100% 評価基準：講義した考え方を実体験の説明に適切に当てはめられているかどうかを見る		

学びの継続	次のステージ・関連科目 企業の出す新商品や、自分を取り巻く組織の意思決定を、さらなる学びの題材として、成長の糧となるように活用して下さい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報特別講義Ⅲ（eビジネス）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石塚 亨	2年	初回講義時に連絡する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>世の中に氾濫するデータが増大し、企業内外のデータの有効活用が事業の成否や企業競争力を左右するとまで言われている。今後のAI活用時代に向けて、データ分析と活用のニーズは高まり、その分野のスペシャリストの必要性、重要性も更に増すことが予測されている。本講義ではデータ解析と活用の基礎知識を整理し、その内容を理解することを狙いとしている。</p> <p>到達目標</p> <p>データ解析、活用のスペシャリストへの関心を持ち、データ解析に関する概念を学び、分析手法を体験できるため、実務にも繋がる基礎知識を整理、把握できるようになるであろう。実際のツールなどの境情報などを作成し、知識習得がきちんとできた学生については、データ解析分野での企業研修（インターンシップ、OJT等）が可能となるレベルに到達できる。</p>	<p>全く経験のない学生にとっては、データ解析、活用のスペシャリストと言っても、何をどうするのか、どうすればその知識が備わるのかわからないのが現実だと考える。この講義では業界をリードするIT企業の現場スペシャリストを講師として、概念のみならず、世界中の多くの企業で利用されているツールも紹介するので具体的なスペシャリスト像を体感できる。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業ガイダンス・データ解析～活用とは 概要理解	用語確認
	2	ビッグデータとは？	インターネット活用し授業内容予習
	3	企業におけるデータ解析の重要性：データ連携(送信側の基礎①)	インターネット活用し授業内容予習
	4	企業事例 1	インターネット活用し授業内容予習
	5	企業事例 2	インターネット活用し授業内容予習
	6	企業事例 3	インターネット活用し授業内容予習
	7	データベースについて	用語確認
	8	サンプル利用による解析実習 1：ハンズオン作業、DB作成	実習準備および復習
	9	サンプル利用による解析実習 2：環境情報、データ連携	実習準備および復習
	10	グループワーク 1 課題研究	課題研究調査
	11	グループワーク 2 課題研究	課題研究調査
	12	グループワーク 3 課題研究	プレゼンテーション準備
	13	課題分析 1 プレゼンテーション	プレゼンテーション準備
14	課題分析 2 プレゼンテーション	試験に向けて講義内容確認	
15	最終試験	試験内容確認	
16	全体総括～本スペシャリストの仕事の将来性について	用語確認	
実践	テキスト・参考文献・資料など	市販テキストは使用せず、ウェブ教材もしくは独自テキストを使用する。参考文献および資料については講義時に紹介する。	
学びの手立て	履修に際して、基本的に欠席は認めない。各回の講義で知識や技術をステップアップして学んでいくため、途中で休むとついて行けなくなる。授業内容の予習は文献にくわえ、インターネットを活用し事前に内容テーマを検索し、積極的に知識獲得を目指すことを望む。また、技術的な質問も随時受け付けるので積極的に授業に参加する意識をもって取り組んで欲しい。		
評価	テスト形式（50%）、グループプロジェクトおよびプレゼンテーション（40%）、受講態度（10%）での総合計点で評価する。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（関連科目）データベース、経営情報システム論、専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ</p> <p>（次のステージ）ビッグデータ解析の重要性やニーズを学び、世界の多くの企業で使用されているデータ解析ツールを使用した実習も行うため、知識と技術を学ぶことができる。この経験より企業実習やOJTなどにも対応可能になる。是非、この知識および技術を次のステップである企業実習や就職活動に生かして欲しい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文化特別講義 I	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山口 眞琴	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本の説話文学の流れを概観した上で、古代最初の説話集『日本霊異記』、平安時代後期に編まれた最大の説話集『今昔物語集』、鎌倉時代前期に成立した説話集『発心集』『宇治拾遺物語』を取り上げ、それぞれの思想・構造・表現などの具体的な特徴を観察することにより、現代にも引き継がれる「説話」の営みに関する問題意識を涵養する。</p> <p>到達目標 説話文学の始発としての『日本霊異記』については、説話とは何かという本質を把握し、説話の形成要因等を窺い知ることができる。次の『今昔物語集』では、当時の世界観・価値観の具体を学ぶことができる一方、説話に内在する読むこと・編むこと・書くことなどの言語行為の関係を理解することができる。中世の『発心集』に関しては、遁世思想の方法論的探究のありよう、仏道修行の方便としての数奇の位置づけを確認することができる。その悲恋往生説話では、説話学的なメタ認識による語りの実際を了知することができる。最後の『宇治拾遺物語』においては、集の連纂や説話の多義性に基づく自在な連想と表現の実態、それと読者参入による読むこととの関係などについて、理解を深めることができる。以上のような実践的学修を通して、読解力・構成力等のレベルアップを目指したい。</p>	<p>説話文学はよく平明・素朴であると評されるが、実際はかなり奥行きがあって知的刺激に充ちてもいる。その親しみやすく、しかも味わい深い表現世界についての読解を通して、古代中世の人々の生活感覚やものの考え方、政治・宗教・文化などの社会史の実態等への理解を深めつつ、我々が「説話」を読んだり学んだりすることの面白さや意義について考えてほしい。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに：講義の概要、古典文学を学ぶ意義	自らの古文学習観を整理する
	2	説話文学史のあらまし：古代から中世までの説話集の展開と諸相	説話文学史への理解を深める
	3	『日本霊異記』成立前史：縁起、唱導、話型	説話とはどういう行為であるか問う
	4	『日本霊異記』の表現と思想：説話の真実味と興味、仏教的位置づけ	説話の形成過程について考える
	5	『今昔物語集』の形成と構造：世界文学の構想、三国の仏法史・国家史	平安時代の世界観・価値観を探る
	6	『今昔物語集』の編纂と表現：説話と話末評語、読むことから書くことへ	説話内部の言語行為について考える
	7	『今昔物語集』「藁しべ長者」説話：民間伝承・類同説話との比較分析	類同話を比較することの意義を知る
	8	『発心集』の遁世＝隠徳論：世捨て聖のラディカリズム	隠徳を語ることの意味を思考する
	9	『発心集』の数奇＝仏道論：方便としての芸能・和歌、西行修行説話	文学と宗教の問題について考える
	10	『発心集』悲恋往生説話の謎：女はどうして往生できたのか？	説話学的なメタ認識の実際を窺う
	11	『宇治拾遺物語』の成立：祖としての『宇治大納言物語』を物語る序	説話を語る原風景について考える
	12	『宇治拾遺物語』の連想と表現(1)：巻頭「道命・和泉式部」説話の可能性	集冒頭の重要性について類例を探る
	13	『宇治拾遺物語』の連想と表現(2)：「和泉式部母娘」説話の展開	説話の連串的な読解を試みる
	14	『宇治拾遺物語』の連想と表現(3)：「瘤取り爺」の正体	全体・細部双方に亘る読みを目指す
15	『宇治拾遺物語』の連想と表現(4)：「龍門聖」説話と前後関係	説話の多面性・多義性を体感する	
16	おわりに：まとめとおさらい	説話文学の豊かな可能性を了知する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは使用せず、資料プリントを配付する。参考文献については、必要に応じて授業中に紹介する。</p>
----	--

学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <p>何回か小課題を出して講義を進めるので、主体的・積極的に参加してほしい。そのほか、質問や意見があれば、遠慮なく発言してほしい。</p> <p>学びを深めるために</p> <p>できるだけ受講前後の予習・復習を心掛けてほしい。</p>
--------	--

評価	<p>平常点40%＝受講態度・取組姿勢（講義者の問いかけに対する応答や積極的な発言などを考慮）</p> <p>小課題30%＝講義中の小課題</p> <p>筆記試験30%＝筆記試験として実施する追加課題</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「日本文学を読むⅠ」「日本文学を読むⅡ」</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文化特別講義Ⅱ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-松本 修	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>〈文学〉の根拠とは何か、読者論を中心に考えていく。さらに文学教育における読者論の適用と課題について学び、文学教育の「読みの交流」活動の元になる理論と言語活動を支える原理を修得する。深い学びが可能となるよう、学習デザインを作成できる力をつけることを目的とする。</p>	<p>日本文化学科の2年次以上を対象とした科目である。文学教育において、読者論やナラトロジーがどのように適用されているのか、教材研究のあり方や、読みの交流活動の組み方などを学び、深い読みや深い学びを実現する。</p>
到達目標	<p>本授業を通して、①読者論が国語科教育にどのように適用されているのか知る。 ②言語活動のあり方やデザインについて、自分の考えを持つことができる。 ③読者論の考えを、教材研究や、指導案作成に活かす事ができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	読者論とは	参考資料を読んでおく
	2	読者論とナラトロジー	
	3	ナラトロジーの導入	
	4	ナラトロジーの導入における問題点	レポート課題（第1～第4次）
	5	語りの分析	
	6	語りの分析（演習）	
	7	言語活動とは	
	8	言語活動と読みの交流	語りの分析課題（第5次～8次）
	9	言語活動の学習デザイン	
	10	深い学びと言語活動	
	11	読者論的視点と深い学び	
	12	深い学びを可能にする学習デザインの可能性	レポート課題（第9～12次）
	13	深い学びを可能にする教材研究と学習デザイン（演習）1	
	14	深い学びを可能にする教材研究と学習デザイン（演習）2	
15	深い学びを可能にする教材研究と学習デザイン（演習）3		
16	総括：レポート作成		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト・・・オリジナル資料 参考文献・・・1. 全国大学国語教育学会編、『国語科教育学研究の成果と展望』、明治図書、2002. 6、pp. 479-486、本体5,460円＋税 2. 全国大学国語教育学会編、『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』、学芸図書、2013. 3、pp. 483-490、本体5,000円＋税 3. 松本修、『読みの交流と言語活動』、玉川大学出版部、2015. 12、本体2,500円＋税</p>
----	---

学びの手立て	<p>①「求められる態度」・・・事前に、参考文献1,2.を読んで臨むこと。3分の1以上の欠席で、単位は不可となる。遅刻厳禁。「再確認しておく知識」・・・読者論・ナラトロジー・語り手・読みの交流・言語活動・深い学び</p> <p>②重要語句の確認・整理をする 知識の整理を行う。 感想（自分の考え）と疑問点をまとめる。</p>
--------	--

評価	<p>①レポート70%・平常点（出席・発言など）30% ②課題レポートの内容を評価する ③欠席が1/3を超える者には単位は認定しない。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 【関連科目】日本文学特講Ⅰ（3年次前期）【上位科目】日本文学特講Ⅱ（3年次後期） (2) 日本文学特講Ⅱで、文学教材の語りの分析と学習デザインを考える事ができるようになる。国語科教育法演習Ⅰにおいて、文学の教材研究・指導案作成に役立てる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-池野 修	3年	英米(野口) noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「英語授業における言語活動」をメインテーマとして、英語コミュニケーション能力の基盤作りの活動、定着・習熟のための活動、活用・応用の活動まで、様々な活動を実際に体験しながら、その指導上の工夫や留意点などについて考えます。また、コミュニケーションの基盤のさらに土台となる英語学習意欲についても、関連のエピソードの分析を通して、多面的に理解を深めます。</p>	<p>英語教育はとても興味深く、魅力的な分野です。様々な言語活動を体験しながら、また他の受講生と考えを交流しながら、より良い英語教育について一緒に考えましょう。</p>
到達目標	<p>(1) 「(英語) コミュニケーション」「(英語) コミュニケーション活動」について原理的に考察することを通して、これらの概念に対する理解を深める。 (2) 英語コミュニケーション能力の基盤作りの活動、定着・習熟のための活動、活用・応用の諸活動を英語学習者として体験し、英語教授者としてそれぞれの活動の意義や実施上の留意点などについて理解する。 (3) 「英語の学習意欲」について、意欲を高める/低下させる要因について理解し、学習意欲について多面的に考察するための様々な視点を獲得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	英語の音作り	授業の復習とレポート内容の構想
	2	「コミュニケーション(活動)」と何か	授業の復習とレポート内容の構想
	3	英語インプット活動と Teacher Talk	授業の復習とレポート内容の構想
	4	英語コミュニケーションの土台を作る、定着・習熟のための活動 (1)	授業の復習とレポート内容の構想
	5	英語コミュニケーションの土台を作る、定着・習熟のための活動 (2)	授業の復習とレポート内容の構想
	6	リーディング活動のバリエーション (1) (Pre- and In-Reading 活動)	授業の復習とレポート内容の構想
	7	リーディング活動のバリエーション (2) (Post-Reading 活動)	授業の復習とレポート内容の構想
	8	英語コミュニケーション活動 (1) (Show & Tell)	授業の復習とレポート内容の構想
	9	英語コミュニケーション活動 (2) (Discussion)	授業の復習とレポート内容の構想
	10	英語コミュニケーション活動 (3) (Debate, Tasks, etc.)	授業の復習とレポート内容の構想
	11	英語による言語活動の種類	授業の復習とレポート内容の構想
	12	英語教科書にみられる言語活動の分析	授業の復習とレポート内容の構想
	13	英語学習意欲に関するエピソードの分析	授業の復習とレポート内容の構想
14	英語学習意欲を高める/低下させる要因	授業の復習とレポート内容の構想	
15	英語学習意欲を高めるための方略	授業の復習とレポート内容の構想	
16	まとめとレポート課題		
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストは使いません。資料は授業の中で配布します。	
学びの手立て	この授業は(教員による講義ではなく)受講生による活動が中心になるので、受講される方は、積極的に活動に参加する、授業に自らが貢献するという強い意志を持って下さい。		
評価	評価は次の2つに基づいて行います。 (1) 授業活動への参加 (50点) (2) レポート (50点) 3つの到達目標の達成度は、主としてレポートの内容を元に判断しますが、到達目標達成のためには授業活動への積極的な参加も必要不可欠であるため、それも評価対象といたします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 英語科教育法演習Ⅰ, 英語科教育法演習Ⅱ (2) 理論と実践を融合し、演習ⅠおよびⅡで求められる模擬授業へと昇華したい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語研究特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-井上 奈良彦	3年	メールもしくは講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「高等学校学習指導要領外国語（英語）編」などにより、自分の主張を根拠と推論を基に説得的に伝えることの大切さを理解してください。また、合理的な意思決定の方法、氾濫する情報を検証する態度と能力の必要性について理解してください。</p>	<p>ディベートの入門書を読んだり、ディベートの模範試合などのビデオを見ることによって、概略を理解してください。ディベートクラブを舞台とした映画や関連サイトを見るのもいいでしょう。例：『グレート・ディベーター 栄光の教室』（原題：The Great Debaters）、その他下記。</p>
到達目標	<p>(1) 議論の基本的な構造を理解する。具体的には次のような概念や方法を理解する：議論、主張、根拠、論拠、根拠の種類とその検証方法、推論の種類とその検証方法、誤謬。 (2) ディベートによる意思決定の方法を理解する。具体的には次のような概念や方法を理解する：論題、肯定、否定、判定、論証責任、推定、争点と議論、立論、反駁、論題の分析、資料調査、準備書面の作成。 (3) 英米の社会文化におけるディベートやディベートクラブの位置づけに興味を持つ。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業の導入。ディベートとは何か。	指定範囲の予習
	2	論題の選定	指定範囲の予習
	3	資料調査	指定範囲の予習
	4	論題の分析	肯定否定の議論の準備
	5	肯定論の構築	指定範囲の予習
	6	否定論の構築	指定範囲の予習
	7	反論の方法	指定範囲の予習
	8	チームによる準備	準備書面の作成
	9	スピーチの発表方法	指定範囲の予習
	10	質疑応答	指定範囲の予習
	11	まとめのスピーチ	指定範囲の予習
	12	判定の出し方	立論の原稿準備
	13	練習試合 1	指定範囲の予習
14	練習試合 2	指定範囲の予習	
15	練習試合 3	指定範囲の予習	
16	練習試合 4	指定範囲の予習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>参考文献 英語版 http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~inouen/debating_in_english_text.pdf 日本語版 http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~inouen/intro-debate-inoue2.pdf 情報サイト http://flc.kyushu-u.ac.jp/~debate/ http://worldofdebate.blogspot.com/ 『議論法』花書院、2006年（原著Argumentation: Inquiry & Advocacy. Allyn & Bacon, 1997）</p>		
学びの手立て	<p>詳細は4月以降の案内で説明する。英語ディベートの実践を中心にするか、ディベートや議論についての理論・分析・文化理解を中心とするかは学生の興味に応じて柔軟に対応する計画です。</p>		
評価	<p>授業参加態度（20%）、課題（30%）、ディベート試合への参加（50%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ディベートの試合を観戦したり、自分たちでチームを作って実践してみよう。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学概論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-澤田 佳世	1年	授業終了時に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、社会学の基本的な概念や思考枠組（考え方、ものの見方）を学習することからスタートし、現代社会を分析的に読み解く社会学の想像力と歴史的想像力を習得、他者の発見・理解を通して、社会の仕組み（構造）を解明することをめざします。「あたりまえ」を相対化し、個人的なことがらを社会全体との関わりの中で捉え、人間社会の様々な問題群とその現代的課題を考えます。	社会学は「人間」と「社会」との関係を様々な角度から検証する学問です。近代社会の様々な問題群とその現代的課題を、実証的・学術的に探究していきましょう。
到達目標	①社会学の基本的な概念を理解する。 ②現代社会を批判的（分析的）に読み解くための社会学の思考枠組み（ものの見方）を習得する。 ③他者の発見・理解を通じて社会の仕組み（構造）を捉える。 ④「あたりまえ」を相対化し、その歴史的・社会的構築性を理解する。 ⑤個人的なことがらと社会的なことがらとの関係を捉える。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	配布資料を読み直す
	2	社会学への誘いー「社会」とは何か、「社会学」とは何か？	理解度テストに向けた復習
	3	自己と相互行為ー「私」って何だろう？	理解度テストに向けた復習
	4	社会秩序と権力を考える (理解度テスト・予定変更あり)	理解度テストに向けた復習
	5	組織と現代社会	理解度テストに向けた復習
	6	メディアとコミュニケーション	理解度テストに向けた復習
	7	グローバリゼーションと国民国家	理解度テストに向けた復習
	8	前半ふりかえり (理解度テスト・予定変更あり)	理解度テストに向けた復習
	9	格差と階級・階層ー変貌する労働の世界	理解度テストに向けた復習
	10	エスニシティと境界	理解度テストに向けた復習
	11	性をめぐる現象とその構築性・多様性ージェンダーとセクシュアリティ	理解度テストに向けた復習
	12	家族をめぐる社会学 (理解度テスト・予定変更あり)	理解度テストに向けた復習
	13	人口変動と現代世界	理解度テストに向けた復習
	14	文化と再生産	理解度テストに向けた復習
15	社会運動と社会構想～後半ふりかえり (理解度テスト・予定変更あり)	理解度テストに向けた復習	
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキストは指定しません】 【参考文献】 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志, 2007『社会学』有斐閣。 宇都宮京子編, 2009『よくわかる社会学』（第2版）ミネルヴァ書房。 このほか、毎回の講義でテーマに応じた参考文献を紹介します。 【資料】毎回の授業でパワーポイント資料を配布します。
----	--

学びの手立て	①本講義は、受講生による「復習」を重視する科目です。各回の講義終了後、配布資料を見直し、テキストの該当章と参考文献を読み、理解を深めてください。 ②基本的に担当教員による講義形式で授業を進めますが、学生への問いかけを随所に取り入れ、双方向的な授業展開を目指します。 ③授業終了時に講義内容に関して学んだこと・考えたことを、コメントシートに記入してもらうこともあります。重要な考察や問いかけは、翌日の講義開始時に受講生全員に紹介し共有します。 ④授業内容は、受講生数と理解度に応じて、適宜変更することもあります。
--------	--

評価	理解度テスト（100%、25点×4回）の結果に基づいて総合的に評価します。理解度テストの実施日については、第1回目の講義でお知らせします。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会学理論、ジェンダー論、国際社会学、都市社会学、南島社会学、家族社会学、マスコミ論、アジア社会論
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	平和・社会学特殊講義 I	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-丹野 清人	2年	講義時間内に教室で対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「マイノリティの権利保障と日本」をテーマとする。日本は、外国人の権利を「在留資格の範囲」内でのみ認められるとしている。これが「性的少数者」、「少年」、「ヘイトスピーチ」といった問題であればどうなるのか、マイノリティのマイノリティの問題をどのように考えればいいのか等の知識を伝える。	「国という単位があることは否定できません。そして、国民という枠組みと外国人という枠組みがあることも事実です。では、枠組みが違うからといって、同じ人間であることも間違いありません。こうした場合、どこまで差があることは許されるのか。人権や平等というものを具体的な人の問題として考えてみませんか。」
到達目標	具体的な事例を通して日本国内に暮らす外国人の権利に関する現状と課題を理解し、問題の改善・解決方法について当事者の視点をふまえて考察できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（本講義の目的と成績評価方法についての説明）	配布した資料を精読する
	2	日本国憲法と外国人の権利（1） 国民と市民の違い	配布した資料を精読する
	3	日本国憲法と外国人の権利（2） 国民（国籍）と住民：戸籍と住民票の関係から	配布した資料を精読する
	4	在留特別許可と退去強制処分の関係	配布した資料を精読する
	5	外国人少年非行と退去強制処分	配布した資料を精読する
	6	偽装査証外国人の退去強制処分	配布した資料を精読する
	7	LGBT外国人と退去強制処分	配布した資料を精読する
	8	外国籍住民と社会保障	配布した資料を精読する
	9	入管法と通知・通達・告示	配布した資料を精読する
	10	国籍法と戸籍法の関係	配布した資料を精読する
	11	外国人の中のハイラーキー：日系人、在日、一般外国人	配布した資料を精読する
	12	「マイノリティのマイノリティ」の人権は成立するのかを考える	配布した資料を精読する
	13	日本のヘイトスピーチ規制と外国人の人権	配布した資料を精読する
14	定住外国人と一般外国人：日本でデニズンシップは成立するのか	配布した資料を精読する	
15	まとめ	講義内容の要点を再確認する	
16			
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。参考文献として丹野清人『「外国人の人権」の社会学』（吉田書店、2018年）を挙げておく。		
学びの手立て	もし海外で暮らす親族・親戚がいたら、外国で暮らすとはどういうことが聞いてみておいてください。		
評価	レポート60%、平常点40%（平常点の評価基準については、講義の冒頭で詳しく説明する）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 3年次の演習 I ・実習および4年次の演習 II ・卒業論文において、本講義から得た知識を活かすことが期待される。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	考古学特殊講義 I	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-村上 恭通	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では鉄器そのものや鉄・鉄器の生産遺構に関する観察法を出発点として、それらに対する評価の筋道を示しながら、東アジア、日本列島における原始、古代の鉄と社会との関係史を講ずることを目的とする。</p>	<p>土の中から錆に包まれて現れる鉄製品に触れたり、溶岩のような鉄滓に囲まれた鍛冶炉を見たりして、これが研究の対象になるの不思議に思う人もいるでしょう。なります。彼らは少し手を加えてやれば雄弁な歴史の語り部になるのです。まずは基本的な知識を身につけて、東アジア、日本列島、そして南西諸島の鉄と社会との関係を考えてみましょう。</p>
到達目標	<p>考古遺物として出土する鉄器の種類、鉄器生産関連遺物・遺構の種類について、判別できるようになる。鉄器の生産技術や鉄の生産技術に関して基本的な説明ができるようになる。鉄器やその生産技術のにも土器や石器と同じような地域差があり、また時代に応じて変化することを理解し、説明できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	世界の鉄文化研究の動向	
	2	鉄文化研究のための基礎知識－用語解説－	前授業の復習とテキストの予習。
	3	中国の鉄技術と文化－鉄器出現～戦国時代－	前授業の復習とテキストの予習。
	4	中国の鉄技術と文化－漢代～南北朝時代－	前授業の復習とテキストの予習。
	5	韓半島の鉄技術と文化	前授業の復習とテキストの予習。
	6	弥生時代の鉄技術と文化1－鉄器とその変化－	前授業の復習とテキストの予習。
	7	弥生時代の鉄技術と文化2－鉄器生産とその限界－	前授業の復習とテキストの予習。
8	弥生時代の鉄技術と文化3－完全なる鉄器普及とその背景－	前授業の復習とテキストの予習。	
9	古墳時代の鉄技術と文化1－前方後円墳の出現と鉄－	前授業の復習とテキストの予習。	
10	古墳時代の鉄技術と文化2－渡来系的鉄技術の本質－	前授業の復習とテキストの予習。	
11	古墳時代の鉄技術と文化3－製鉄開始の背景－	前授業の復習とテキストの予習。	
12	製鉄技術を通じた古代の日中韓関係	前授業の復習とテキストの予習。	
13	南西諸島における鉄技術と文化	前授業の復習とテキストの予習。	
14	ユーラシア大陸規模での鉄器文化研究	前授業の復習とテキストの予習。	
15	授業の振り返り	前授業の復習。	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書は使用せず、講師が作成したテキスト(資料集)を使用する。ただし次の文献を挙げておくので、関心があれば事前に読んでみてください。『古代国家成立過程と鉄器生産』村上恭通、青木書店、2007年</p>		
学びの手立て	<p>内容としては日本古代史、東アジア史にも関連するが、遺物、遺構といった考古学の対象を一次資料とするため、考古学概論など、考古学の基礎的な科目を受講しておくことが望ましい。また、学びを深めるために、受講までに自分が関心のある地域、時代で鉄器を出土した遺跡の発掘調査報告書に目を通し、鉄器に関する記述と評価を読み、それに対する意見や疑問を講師に投げかけてください。本授業内容の実践となるでしょう。</p>		
評価	<p>平常点20%、最終試験80%で評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目としては「沖縄の考古学」。類似科目としては「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」「アジア考古学」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉学特講C	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山中 京子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>講義目的：県外から医療福祉分野の研究者を招聘し、広く国内外の医療福祉研究の動向について学びます。また、今回はHIV感染者に対する支援について国内外の最新アプローチを学びます。科目の位置づけ：広く医療福祉について学ぶ科目です。国試とは関係ありません。</p> <p>到達目標</p> <p>医療福祉分野の研究動向について理解することができます。国内ばかりでなく国外の医療福祉の動向についても理解することができます。また、HIV感染者に対する社会福祉支援の歴史の変遷や現状、今後の課題について理解することができます。</p>	<p>社会福祉学特講は集中講義形式であり、県外から招聘した研究者と出会い、思想や研究、実践を直接学ぶ機会と言えます。豊かな学術経験を堪能する時間にしてほしいと思います。本講義はグループワークを取り入れて楽しくディスカッションする予定です。</p>

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	医療福祉の概要①歴史	配布資料を読む	
	2	医療福祉の概要②制度	配布資料を読む	
	3	医療福祉の概要③支援の特徴	配布資料を読む。宿題に取り組む	
	4	医療福祉における多職種連携・協働①なぜ連携・協働が求められるのか及び連携・協働の基本的機能	配布資料を読む	
	5	医療福祉における多職種連携・協働②連携・協働の基本的機能及び形成プロセス	配布資料を読む	
	6	医療福祉における多職種連携・協働③連携・協働の形成プロセス及びメリット・デメリット	配布資料を読む。宿題に取り組む	
	7	医療福祉における多職種連携・協働④葛藤のマネジメントに関する事例検討(グループワーク)	配布資料を読む	
	8	医療福祉における多職種連携・協働⑤葛藤のマネジメントに関する事例検討(グループワーク)	配布資料を読む	
	9	HIV陽性者への心理社会的支援①理論及び国際的動向	関連資料を読む	
	10	HIV陽性者への心理社会的支援②HIV陽性者と高齢化	配布資料を読む	
	11	HIV陽性者への心理社会的支援③HIV陽性女性への支援	配布資料を読む	
	12	ソーシャルワークと性の多様性①理論と職業倫理	配布資料を読む。宿題に取り組む	
	13	ソーシャルワークと性の多様性②国際的動向	配布資料を読む	
14	ソーシャルワークと性の多様性③医療福祉における支援	配布資料を読む		
15	まとめ	配布資料を読む		
16	試験			
	テキスト・参考文献・資料など	決まった教科書はありません。講義中に資料を配布します。また、適宜、参考文献を紹介します。		
	学びの手立て	履修の心構え：社会福祉学の基本的知識を備えていることが期待されます。しかし、何より医療福祉論に関心があることが大切です。集中講義なので、体調を整えて休まないようにしましょう。学びを深めるために、事前に医療福祉に関する文献を読んでおきましょう。また、ボランティアにも積極的に参加しましょう。		
	評価	期末試験：80%、ミニレポート20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	社会福祉学関連科目につなげたり福祉研究につなげたりする。受講終了後に履修してほしいと考えている特定の科目はない。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	介護技術Ⅰ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-諸見里 安知	2年	講義終了後に受け付ける	

学びの準備	ねらい 介護の意味や目的、介護技術の具体的内容、介護をする際の留意点、専門職としての倫理等について理解する	メッセージ 受講生は日頃から、介護について関心を持ち、介護の知識や技術についての情報を収集し理解を深めるよう努めること
	到達目標 クラス終了の際は、介護に関する基本的な知識を有すると同時に、関連する医療、保健、生活リハやレク等の基本について理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 講義概要、テキスト・服装・受講上の注意など	講義内容を復習し次の時間に備える
	2	介護概論①（介護の内容・意味、現場の実情）	同上
	3	介護概論②（高齢者理解）	同上
	4	コミュニケーション技術①（基本）	同上
	5	コミュニケーション技術②（障害別）	同上
	6	介護保険施設の実践①（施設ケア）	同上
	7	介護保険施設の実践②（在宅ケア）	同上
	8	介護保険の課題	同上
学びの実践	9	リスクマネジメント①（危険予知・ヒヤリハット）	同上
	10	リスクマネジメント②（高齢者虐待）	同上
	11	認知症理解①（記憶障害・周辺症状）	同上
	12	認知症理解②（BPSD行動心理状態）	同上
	13	認知症ケア実践①（事例）	同上
	14	認知症ケア実践②（ロールプレー）	同上
	15	高齢者レクリエーション	同上
	16		
テキスト・参考文献・資料など クラスの中で指定する 必要に応じて、資料を配付する			
学びの手立て 多くの視聴覚教材もあり、学生が自主的に情報収集や資料収集をすることを歓迎する また、可能な限り、実際の介護現場に触れることを歓迎する			
評価 必要に応じて小論文を課し、学期末に、まとめのレポートを課す			

学びの継続	次のステージ・関連科目 介護技術Ⅱの履修を希望する
-------	------------------------------

※ポリシーとの関連性

介護は、社会福祉の重要な援助技術と位置づけ、技術と同時に人間に対する姿勢や考え方に考え対応力を養う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	介護技術Ⅱ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-諸見里 安知	2年	質問はクラスで受け付ける。	

学びの準備	ねらい 介護の意味や目的、介護技術の具体的内容、介護をする際の留意点、多職種連携、専門職としてのチームワークを理解する	メッセージ 受講生は日頃から、介護について関心を持ち、介護の知識や技術と同時に、社会の行動や介護に関する政策面についても情報を収集し理解を深めるよう努めること
	到達目標 クラス終了の際は、介護に関する基本的な知識を有すると同時に、関連する医療、保健、生活リハやレク等の基本について理解とを目標とする	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 講義概要、テキスト・服装・受講上の注意など	内容を予習復習し講義に備える
	2	介護保険制度の理解①（制度の仕組み）	同上
	3	介護保険制度の理解②（介護支援専門員のしごと）	同上
	4	介護保険制度の理解③（ケアプラン作成P D C A）	同上
	5	介護保険制度の理解④（包括ケアシステム）	同上
	6	生活支援技術①（I C F）	同上
	7	生活支援技術②（生活支援の基本原則）	同上
	8	生活支援技術③（高齢者理解・ベッド上での介助）	同上
	9	生活支援技術④（移動介助・車いす介助方法）	同上
	10	生活支援技術⑤（移動介助・杖歩行介助方法）	同上
	11	生活支援技術⑥（食事摂取メカニズム・食事介助）	同上
	12	生活支援技術⑦（排泄メカニズム・排泄介助）	同上
	13	介護過程の展開	同上
	14	介護と看護の連携（多職種連携）	同上
15	介護者技術Ⅱまとめ	同上	
16		同上	
	テキスト・参考文献・資料など クラスの中で指定する 必要に応じて、資料等を配付する		
	学びの手立て 多くの視聴覚教材もあり、学生が自主的に情報収集や資料収集をすることを歓迎する また、可能な限り、実際の介護現場に触れることを歓迎する		
	評価 評価は、①出席状況（20%）、②実技試験の得点（50%）、③課題・レポートの提出状況（30%）など総合的に判断して行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 クラスで学んだことを社会福祉等の実習を通して現場で確認すること さらに専門的な学びを継続し、将来は専門介護従事者となることを期待する
-------	--

※ポリシーとの関連性

学生自身の実践的かつ積極的な活動を支援し、地域との連携や地域への貢献について深く考え、実践する力を習得することを旨とする。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域連携演習Ⅱ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-砂川 亜紀美	2年	メール (ptt814@okiu.ac.jp) 及び演習内。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会の課題の解決に向けて、住民や地域社会の様々なと連携することの意義について理解するとともに、体験的に地域との連携や解決に向けた取り組みの方法について学ぶ。</p>	<p>地域のニーズに目を向け、それに対応する各種の福祉施策・実践等に関心を持って、自分自身で積極的に学ぶ姿勢で受講することを期待する。実際に、地域と連携する場への参加をするため、その状況にふさわしい判断や行動ができるよう心がけてほしい。</p>
到達目標	<p>福祉の現場では、多様な専門職との連携していくための高い専門性や幅広いネットワークが求められ、さらに、時代や社会の期待に応じていく姿勢が求められている。本演習では、ソーシャルワークによる地域連携の方法とコーディネートのスキルを身につける。加えて、生涯にわたって自らの専門職業能力を高められるよう、主体的に学習を継続できる力を養う。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、地域連携とは	
	2	地域の課題の現状と背景の整理	関連情報の収集
	3	地域の資源（住民、行政・企業・事業所など）の理解	関連情報の収集
	4	地域における各職種の専門性の活かし方と連携のあり方	関連情報の収集
	5	地域における各職種の専門性の活かし方と連携のあり方（グループワーク）	関連情報の収集
	6	地域連携活動の実践に向けてのアセスメント	関連情報の収集
	7	地域連携活動の実践に向けての計画	関連情報の収集
	8	地域連携活動の実践／課題別取り組み	関連情報の収集
	9	地域連携活動の実践／課題別取り組み	関連情報の収集と実践の振り返り
	10	地域連携活動の実践／課題別取り組み	関連情報の収集と実践の振り返り
	11	地域連携活動の実践／課題別取り組み	関連情報の収集と実践の振り返り
	12	地域連携活動の実践／課題別取り組み	関連情報の収集と実践の振り返り
	13	地域連携活動の実践／課題別取り組み	関連情報の収集と実践の振り返り
14	地域連携活動の実践／課題別取り組み	実践の振り返りと発表の準備	
15	各専門職種の視点から考える多職種連携、地域課題解決の提案	実践の振り返りと発表の準備	
16	振り返りと今後の取り組みについて	今後の目標設定	
	テキスト・参考文献・資料など	講義時に随時紹介する	
	学びの手立て	<p>受講にあたり、遅刻をしない、私語を慎む、課題提出の締め切りを守る。外部講師や地域へのフィールドワーク時に対応いただく方々への敬意を忘れずに受講すること。講義外の講演会やシンポジウム等への積極的な参加や、チームを組んでのディスカッションや発表の機会が多くあるため、積極的な意思表示や参加を期待</p>	
	評価	授業態度及び参加状況、ソーシャルワーカーとしての基本的な態度、中間発表及び最終発表など	

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義の中で提示する
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学特講A	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-湯川 進太郎	2年	s-yukawa@human.tsukuba.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、心理学の入門レベルの学習を経た人を対象に、「からだ」についての心理学を講義する、より専門性の高い授業です。具体的には、私たち人間の「こころ」の習慣（癖）について詳しく学び、これを前提に「こころ」と「からだ」が相互にどのように結びついているかを理解し、最後に「からだ」で「こころ」を調えるマインドフルネスにまつわるトピックを様々な角度から紹介します。	私たちは身体的な存在であり、「からだ」と「こころ」は不可分（心身一如）です。心理学は「こころ」の学問なのですが、人間とはいかに心身一元論的な身体的存在であるかを理解することが、ストレスマネジメント、感情制御、ウェルビーイング、心身の健康へと結びつく重要な鍵となります。
到達目標	本講義を受講することによって、身体心理学の基礎的な考え方を得ることができる。そして身につけた知識によって、自身の日常生活の中で身体心理学がどのように関わっているか、どのように役立っているかを考えていけるようになる。さらには、受講生それぞれの日常生活を自分自身で振り返りながら、得られた知識を将来的に役立てていけるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、身体心理学とは何か	講義の復習
	2	流れる心：意識とは何か、意識の流れ、意識の構造	講義の復習
	3	さまよう心：マインドワンダリング、デフォルトモードネットワーク、内側前頭前皮質	講義の復習
	4	再帰する心：心の時間旅行、心の理論、社会環境への適応	講義の復習
	5	反復する心：反すうと心配、逆説的効果、ネガティブバイアス	講義の復習
	6	心から身体1：自然環境への適応、闘争逃走反応、ホメオスタシス	講義の復習
	7	心から身体2：心身相関、心身症、アレキシサイミア	講義の復習
	8	身体から心1：身体化認知、表情フィードバック仮説、ソマティックマーカー仮説	講義の復習
	9	身体から心2：リラクゼーション、呼吸法、自律訓練法	講義の復習
	10	マインドフルネス：気づき、マインドフルネス、島	講義の復習
	11	神秘体験：魔境、変性意識状態、フロー	講義の復習
	12	心身一元論：心身二元論、心身一如、レスパラント反応	講義の復習
	13	呼吸と身体：呼吸、ブッダの瞑想、身体感覚	講義の復習
14	水のごとく：上善如水、禅・武道への影響、ブルース・リー	講義の復習	
15	瞑想：武術・武道・スポーツ、ONENESS、武術瞑想	講義の復習	
16	最終テスト（筆記試験）		
テキスト・参考文献・資料など	<p>特定のテキストは使用しません。学習を深めたい人は、以下の文献を参考にしてください。</p> <p>参考文献：</p> <ul style="list-style-type: none"> 湯川進太郎 2014 空手と禅 BABジャパン 湯川進太郎 2017 空手と太極拳でマインドフルネス BABジャパン 湯川進太郎 2017 実践 武術瞑想 誠信書房 湯川進太郎 2018 “老子”の兵法 BABジャパン 		
学びの手立て	<p><履修の心構え></p> <ul style="list-style-type: none"> 受講態度を重視します。授業内容と関係のない私語は禁止します。私語を指摘された場合、受講態度の評価に大きく加味されます。 受講の前提として、独学で心理学に関する入門書を一冊以上読み終えているか、あるいは心理学に関する入門レベルの科目の単位を取得済みであることが望ましいです。 <p><学びを深めるために></p> <ul style="list-style-type: none"> 一日の生活の中で、「身体（からだ）の感覚」に意識を向けながら、過ごしてみてください。 		
評価	<p>最終テスト、授業内小テスト、受講態度でもって、総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最終テスト（筆記試験） 45% 授業内小テスト 30% 受講態度 25% 		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本講義で得た知識や体験を元に、日々の生活を見直してみたり、心身の健康や幸福を考えてみたり、ひいてはカウンセリングなどに活かしたりしてみてください。

科目基本情報	科目名 グローバル・キャリア	期別	曜日・時限	単位
		集中	集中講義	2
	担当者 _金城 和光、_伊波 貢、_渡慶次 佳朗、_佐久本 学、_池村 純、_大城 尚子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	村上了太（内線：5629）またはmurakamiあつとokiu.ac.jpまで連絡すること。	

学びの準備	ねらい 大学生生活を充実するために、 ①海外留学 ②海外インターン などを体験したい／知りたいと思っている学生を主たる対象としています。	メッセージ ①7月開催予定のオリエンテーションを受講した学生のみ履修を認めます。掲示板で確認してください。やむを得ず欠席する場合は、問い合わせ先に記載された教員まで連絡してください。なお、登録が削除されても代替科目の履修を提供することはありません。 ②社会人講師にも登壇して頂きます。多様な価値観を吸収するのみならず、様々な質問も投げかけてみてください。
	到達目標 ①卒業後の進路について主体的に考えることができる。 ②学生生活の様々な経験を「有意義である」と説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	産官学のキャリア形成から学んだこと	産官学の仕事について調べる
	2	生きる力（1）ー人生と仕事ー	人材に関する『論語』等を読書する
3	海外キャリア形成ーグローバル人材とは何か？ー	グローバル人材について調べる	
4	海外キャリア形成ー沖縄と台湾での起業ー	海外起業家について調べる	
5	生きる力（2）ー人生と仕事ー	稲盛和夫『生き方』を読書する	
6	グローバル企業のアナリストから見た沖縄経済	沖縄経済を知る	
7	グローバルキャリアとローカルキャリアーグローバルキャリアをローカルに活かすー	グローバルキャリアについて調べる	
8	国際環境の変化とグローバル人材育成	国際的な問題について調べる	
9	海外留学のすすめ	留学や奨学金について調べる	
10	海外キャリア形成ーアジアで就職した先輩の事例紹介ー	海外就職について調べる	
11	目標の設定と自己成長ー英国大学院留学と外資系企業勤務ー	自分の目標を記してみる	
12	より良い仕事、よりよい人生とは？ー沖縄和の課題と未来ー	沖縄県の課題について調べる	
13	キャリア形成に必要なコミュニケーション能力	コミュニケーション力を理解する	
14	キャリア形成に活かすセルフブランディング	セルフブランディングを理解する	
15	振り返りおよびグループ学習・発表	自分の目標と行動計画を作成する	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 講義中に指示する。		
	学びの手立て ①履修の心構え 予習と復習に取り組む必要がある。 ②学びを深めるために 大学とは「知考書」のプロセスを理解して鍛錬する場でもある。ゆえに、1) ノートにメモをとる、2) 各回の講義の意味を考える、3) 将来像を設計し、機会に応じて意思表示する場を設ける、などが必要である。		
	評価 各回の理解度（25点）、提出物（25点）、試験（50点）の割合で評価する、		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ジョブインタビュー入門、自己表現入門、キャリア・デザイン、心理学1、心理学II、インターンシップ（正課および正課外）、海外留学、キャリア支援課の利活用など
-------	--

※ポリシーとの関連性

「社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能」を教授する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ワーカーズコープ論	集中	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	_相良 孝雄、_村上 了太、_高橋 弘幸	1年	村上了太(内線:5629)またはmurakamiあつとokiu.ac.jpまで連絡すること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、現在と将来を考えるために設置された。たとえば、「学生として、今何をすべきか分からない」、「進路を考えると不安になる」、「大学生活はこんなはずではなかった」などと感じて日々過ごしている学生も少なくない。このような不安や不満は、本講義で示唆される「一歩前へ踏み出す力」を涵養することで解消される。</p> <p>到達目標</p> <p>①卒業後の進路について主体的に考えることができる。 ②学生生活の様々な経験を「有意義である」と説明できるようになる。 ③「働くとは？」という考えに対して多角的な視点が生まれてくる。</p>	<p>①社会人講師にも登壇して頂きます。多様な価値観を吸収するのみならず、質問も投げかけてください。 ②時間厳守は当然のことです。 ③レポートは講義中に提出期日と課題を指示します。</p>

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>2</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ①</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>3</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ②</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>4</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ③</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>5</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ④</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>6</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑤</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>7</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑥</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>8</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑦</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>9</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑧</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>10</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑨</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>11</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑩</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>12</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑪</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>13</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑫</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>14</td><td>沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑬</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>15</td><td>本講義もまとめ(働くこと、生きること)</td><td>関連書籍による理解</td></tr> <tr><td>16</td><td>予備日</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション	関連書籍による理解	2	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ①	関連書籍による理解	3	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ②	関連書籍による理解	4	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ③	関連書籍による理解	5	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ④	関連書籍による理解	6	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑤	関連書籍による理解	7	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑥	関連書籍による理解	8	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑦	関連書籍による理解	9	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑧	関連書籍による理解	10	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑨	関連書籍による理解	11	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑩	関連書籍による理解	12	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑪	関連書籍による理解	13	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑫	関連書籍による理解	14	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑬	関連書籍による理解	15	本講義もまとめ(働くこと、生きること)	関連書籍による理解	16	予備日		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション	関連書籍による理解																																																			
2	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ①	関連書籍による理解																																																			
3	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ②	関連書籍による理解																																																			
4	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ③	関連書籍による理解																																																			
5	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ④	関連書籍による理解																																																			
6	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑤	関連書籍による理解																																																			
7	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑥	関連書籍による理解																																																			
8	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑦	関連書籍による理解																																																			
9	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑧	関連書籍による理解																																																			
10	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑨	関連書籍による理解																																																			
11	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑩	関連書籍による理解																																																			
12	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑪	関連書籍による理解																																																			
13	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑫	関連書籍による理解																																																			
14	沖縄のワーカーズコープの実践より ケーススタディ⑬	関連書籍による理解																																																			
15	本講義もまとめ(働くこと、生きること)	関連書籍による理解																																																			
16	予備日																																																				
	テキスト・参考文献・資料など																																																				
	講義中に指示する。																																																				
	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え 予習と復習に取り組む必要がある。 ②学びを深めるために 大学とは「知考書」のプロセスを理解して鍛錬する場でもある。ゆえに、1)ノートにメモをとる、2)各回の講義の意味を考える、3)将来像を設計し、機会に応じて意思表示する場を設ける、などが必要である。</p>																																																				
	評価																																																				
	各回の理解度(25点)、提出物(25点)、レポート(50点)の割合で評価する。																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ジョブインタビュー入門、自己表現入門、キャリア・デザイン、インターンシップ(正課および正課外)、海外留学、キャリア支援課の利活用、県内外に存する関連施設の視察など。</p>
-------	--